

文化鑑賞会 デフ・パペットシアター・ひとみ

10月29日に本校で文化鑑賞会が開かれました。今回は、全国各地で人形劇の公演やワークショップが行われているデフ・パペットシアター・ひとみさんをお招きして体験や鑑賞を行いました。

デフ・パペットシアター・ひとみさんはろう者と聴者が協力して公演活動を行なっているグループで人形劇が持つ「視覚的」な魅力に着目し、新しい表現の可能性に挑戦されています。

今回は、感染症予防対策のため幼稚部・小学部、中学部・高等部にわかれワークショップや公演の鑑賞を行いました。ここではその内容についてご紹介したいと思います。

幼稚部・小学部

幼稚部・小学部の児童は「はこ人形を作ってみよう！」というワークショップに参加しました。各自家から持ってきたお菓子の箱やティッシュの箱を頭、体、手、足に見立て個性豊かな人形を作りました。「これを頭にしよう」「顔や足が動くようにしたい」など、真剣な眼差しで作りながら、少しずつできていく人形を見てとても嬉しそうにしていました。

スタッフの方はただ単に箱を固定させるのではなく、箱と箱の間に少し空間を作ってテープをつけさせ、本当の人間のように手や足が動くようにアドバイスされていました。

人形が完成した後には、頭の後ろにテープで取手をつけて実際に動かして遊びました。また作った人形同士で握手をしたりと人形を通してのコミュニケーションを楽しんでいました。

(文責：井上)



中学部・高等部

○△□を使って自由に表現しました。はじめはどのようにしたらいいのか分からず、困っているとスタッフの方が例えとして、△をおにぎりに見立てて食べてみたり、山に見立てて登ってみたりされました。すると段々△が本当のおにぎりや山に見えてきました。それを参考に□や○も使って表現することができました。最後にミニシアターを見せていただき、その表現力の豊かさに感動しました。

(生徒の感想) ○△□でいろいろな表し方があることを知った。個性的な表現で感動した。特に星と太陽は上手で感動した。今までこんな劇を見たことがなかったのでインパクトがあり、楽しかった。

(文責：中田)



近畿オーディオロジー研究会

秋の講演会

10月30日～11月7日に近畿教育オーディオロジー研究協議会が開催する、秋の講演会がありました。今回は本会初めての試みとしてオンデマンド配信を行い、講座動画をYouTubeによる限定公開という方法で各自で研修を受けました。また、質疑応答についてはアンケートを通じて後日返答していただく形で行いました。

山本 晃先生（独立行政法人 国立特別支援教育総合研究所
研究企画部 総括研究員）

講演テーマ 「聴覚障害教育における現状と課題を踏まえた実践」

講演内容は大きく3つに分かれていて、どのお話も本当に参考になることばかりでした。その中から少し紹介したいと思います。

〔聴覚障害教育における現状〕

全国聾学校長会が行っている実態調査（加盟校102校対象）を元に学校内でのコミュニケーション方法や、補聴器や人工内耳の装用状況などをグラフで見ることができたので、具体的な数字として全国の現状を知ることができました。また、現在の状況だけでなく人工内耳を両耳に装用している傾向が高まってきていることや、補聴機器を装用している生徒の約半数は20dB～40dBの間こえであることなど全国の傾向や流れも把握できる内容でした。

〔聴覚障害教育における課題と対応〕

幼児児童生徒数の少人数化や言語力など課題はたくさんありますが、いずれも対応として考えられることもお話していただきました。例えば少数化については、オンラインを活用した合同授業でお互いの意見交換をしたり、難聴特別支援学級や通級による指導の子どもたちの補聴環境については、授業中にキーワードだけでも文字情報を提示することで理解が深められ、一緒に授業を受けていた健聴の子どもたちもわかったという声があったそうです。

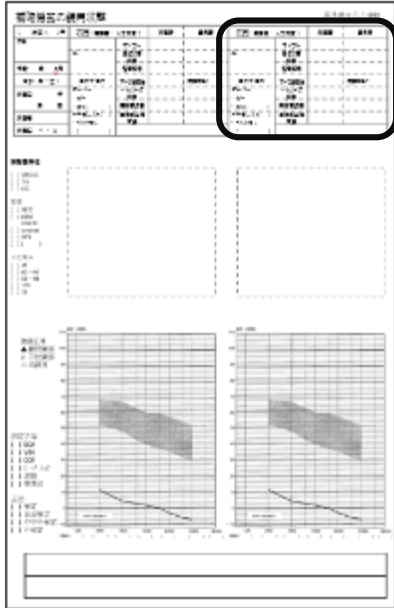
〔実践例〕

自立活動の実践例をたくさん紹介していただきました。天気や気温など状況に応じた表現方法を考えさせたり、自分の気持ちにぴったりの言葉を順序立てて引き出したりするなど、言葉を広げる方法がたくさんあり、とても参考になりました。
〈文責 山中〉

補聴器の機能

補聴器には、①音を大きくするはたらき、②耳を保護するために、大きすぎる音を抑えるはたらき（最大の音を決める）、③周波数ごとに音の増幅を調整するはたらき（音色を変える）があります。また、入って来た音を細かく分析し、加工することで聞きやすくするという機能もあります。今回は補聴器の機能について紹介します。

測定後にお渡しする「補聴器特性表」の資料に、どのような機能が入っているのか記載されているので、ご自身の「特性表」と照らし合わせながらご覧ください。



拡大！

右耳(補聴器・人工内耳)	測定時	装用時
SN:	ボリウム 風切り音抑制 騒音抑制	
耳かけ・耳穴	マイク指向性	無指向性／
ダンパー	ハウリング抑制	
・なし	突発音抑制	
・あり()	周波数圧縮変換	
イヤモード()		
・ベントなし		
・()		



ハウリング抑制

補聴器を使っていて困ることの一つが「ハウリング」です。基本はイヤモードで止めることができますが、電話を使っている時や、補聴器を耳に入れる時、食事などで顎を大きく動かした時などに「ピーピー」と音が聞こえます。最新の補聴器には、ハウリングの発生を抑える機能が内蔵されており、不快なハウリングを軽減してくれます。

指向性

一般的な機種 of 指向性は後方や横からの騒音を抑制し、正面の音声を聞きやすくしますが、上位機種になると360°の範囲で音声を検出し、騒音を抑制することでどの方向からの会話も聞き取りやすくします。

騒音抑制

クーラーの音、換気扇の音、車のエンジン音など、周囲の雑音状況に応じて、雑音を小さくする機能です。

風切り音低減

補聴器のマイクに強い風が当たって生じる騒音を小さくする機能です。現在は、精度が向上しており抑制がかかりすぎて、会話の聞きもれのないように作動するようになっています。

周波数変換

高い音（周波数が高い音）の聞き取りやすさをあげる機能です。周波数変換機能は、圧縮や移行など各メーカーによってとっている手法が異なりますので、詳しくは、各補聴器会社のパンフレットをご覧ください。

補聴器は、使う人の聴力や聞こえの状態に合わせて細かく調整をすることで、補聴器が持っている性能を最大限に発揮することができます。購入時はもちろんのこと、購入後も繰り返し調整を重ねて、自分にぴったり合った補聴器になるように、先生や販売店の方に相談してみてくださいね。参考・引用：HP「日本補聴器販売店協会」「シニアのあんしん相談室 補聴器案内」



動画紹介「なんちょうなんなん」

難聴の子を持つ家族の会「そらいろ」さんが作ったアニメ動画について紹介します。この動画は、聴覚障害によって、日常の中で困っている出来事や、周囲にお願いしたい対応について知ってもらうために、つくられた動画です。聴覚障害は、外見から分かりにくいいため、日常生活でどのようなことに困っているのか分かりにくいと言われていますが、このアニメーション動画は、約3分間で、分かりやすく、またやさしい言葉で紹介されています。「そらいろ」さんのクラウドファンディングで多くの方が支援され、空気株式会社「KOO-KI」が動画を作成されました。

歌詞



「なん」でもはなしたいけど
「ちょう」っときくのがむずかしい

だから

なんちょう なんなん なんちょう なんなん
なんちょう なんなん なんだろう

まえにまわってはなしてくれたら
ひとりずつかいわはじめてくれたら
みぶりにぶりまじえてくれたら
ききなおすことにおうじくれたら

インコをリングに ききまちがえた
にていることばくべつが「なん(難)」
なんちょう なんなん なんちょう なんなん
くちのうごきは おなじです

じゅんちょう かいちょう ぜっこうちょう
もっともっとはなしができるから

ガヤガヤそうおん とってもにがて
ほちょうきつけるとノイズも「ちょう(聴)」
なんちょう なんなん なんちょう なんなん
きんちょう しんちょう やりすごそう

なんちょう なんなん なんちょう なんなん
「なん」でもはなせる せかいって
なんちょう なんなん なんちょう なんなん
「ちょう」たのしくてすてきなせかい

よばれたこえに きづかない
うしろのおとの ききとり「なん(難)」
なんちょう なんなん なんちょう なんなん
しらんぷりではないんです



思わずうん!とあいづちをうつ
どうじのかいわすべてが「ちょう(聴)」
なんちょう なんなん なんちょう なんなん
いちどのききとり むずかしい

ほちょうきや じんこうないじをつけていても
ぜんぶきこえているわけではないんだ

